

足になりそうだったので「市に申請へ行ってください」とのことで市に行ったところ、すでに事業所からも一報があり、母が市に行ったらとてもスムーズに話が進んだ。

11. 通所施設に短期入所を申し込みました。
12. 当時、通所していた関係の事業所の施設庁へ相談したところ、すぐに対応して下さった。二泊のショートステイで受け入れして下さり、母親自身は葬儀などに参加できた。
13. 日頃利用していた居宅事業所のスタッフに相談したところ、短期入所の利用を勧められて、事業所の紹介を含めた情報提供をしていただいた。短期入居事業所もすぐに対応して下さり、安心して出産することが出来た。
14. 入所施設で宿泊した。
15. 入所施設に2ヶ月間緊急入所し、対応してもらった。
16. 父がKPとなり、相談支援事業所に相談。相談支援専門員がサービス等の調整を行う。→祖父母や父が学校への送迎が可能な日については家族が送迎を行う。父が姉弟等所用がある際には、ショートステイの利用を行う。但し、ショートステイのみでの調整が不可能であったので、学校と相談し寄宿舎の利用を一時的に追加。放課後のみの支援で可能なところは、放課後デイサービスの利用を追加。但し、普段利用している事業所のみでの調整は困難であったため他事業所の利用を調整。またその事業所では入浴支援をしてもらい、主介護者が普段担っている部分の代行を一時的に行う。
17. 母の入院期間、ショートステイの予約が取れた日程でショートステイの支援を受ける。
18. 夜、母より担当相談員へTEL。事業所と調整実施の上、緊急短期入所の利用。

イ) グループホーム（1件）

19. 連絡を受けた職員がすぐ自宅に駆けつけご本人とやり取りして、緊急にケア職が夜間も常駐するグループホームの空室を利用して宿泊による対応をしてくれた。その後、継続してグループホームに入居して家族との一定の距離を置き、これまで同様に通所の生活介護に通い、土日余暇をヘルパーと地域活動支援センターで対応してもらっている。

ウ) 生活介護（5件）

20. (普段は家族が送迎を行っているが)事業所やファミリーサポート(学齢時)、福祉有償運送に依頼し、送迎を代行してもらった。
21. 1については、急きょ友人にお願いし、息子の様子を見てもらった。2についてはその後、グループホームに入居することができた。
22. 土曜日 生活介護事業所B 日曜日 地域活動支援センターC 生活介護事業所Bが閉所の場合、生活介護事業所D
23. 本人が楽しく行ける環境の施設を少しずつ慣らしていきました。施設の方と話を

して毎日楽しく通所を目標にしました。作業はなく、音楽、入浴できることのみ。
今は二か所施設(通所事業所)、ヘルパーさん、ショートステイ月二回、元気です。
24. 夜遅くまでタイムケアで見ていただく。

エ) 行動援護 (4件)

25. その日はもともと用事があり、サービスをお願いしていたが、家族がそのようなことになり、急遽時間を変更してもらい、2時間程早くむかえに来てもらった。
26. 気分を変えるために行動援護で外出をお願いしました。
27. 居宅事業所ヘルパーで対応してもらった。
28. 葬儀を行う地区まで来ていただき、通夜、葬儀の間、別室にて世話をしていただきました。

オ) 居宅介護 (5件)

29. 居宅介護及び移動支援事業所へ相談したら、両親が葬儀へ参列される時間帯に本人への外出支援のプログラムを組んで対応して下さった。移動支援を活用した外出同行及び見守りなどの支援。
30. 支援スタッフさんが駆けつけて、見守りながらも徐々に自宅へと誘ってくれた。
31. 発作時の自宅での見守り学校への送迎、体調不良時の送迎(福祉有償運送)、母の用事や祖母の通院時は生活介護事業所に時間を延長してもらい、居宅介護事業所福祉有償運送で送迎。
32. 普段使っている居宅事業所に連絡。学校まで子どもを送っていただけないか確認した。折り返し連絡が入り、急遽にも関わらず対応してくれた
33. 夕方、電話で支援を依頼し、すぐに自宅に迎えに来てくださいました。居宅介護とナイトケアで対応して頂き、その間に病院へ行くことが出来ました。翌日の夕方に自宅に送って頂きました。

カ) その他の対応 (27件)

34. 【祖父の死亡】夜中に施設の職員に電話して、ショートステイの利用を入れてもらった(2泊)。次の日は、他生活介護事業所であったが、本人の負担を考慮し、慣れている職員もいる同一法人の生活介護を利用した。
35. 【妹の登校拒否】相談支援専門員が母に電話して、事情を聴いた。母が話をするうちに落ち着いてきたため、支援が終了した。
36. いくつかの事業所を探し、介護タクシーが使えるようにはしているが、料金負担も大きく、不安は消えない。
37. グループホームより家族(母)に連絡があり、グループホームの職員が母と一緒に警察へ行ってきて本人を引き取ってきた。その後、支援センターや行政などを相談し、自宅で生活し自宅から通える事業所へ移ることとなった。
38. ほぼなし(15年ほど前)情報もなかった。
39. 家族のみで探していたため、支援はなし。実家の祖父も探そうとして頃に発見。(探

していた家族が発見。発見時に知らない物やモスバーガーの商品などを手に持っていた。)

40. 過去数年の間、複数回の入院手術をおこなっており、入院期間（約1週間から2週間）中の付き添い対応として、制度でのヘルパーサービスが利用できない為、私的契約のパーソナルサービスを利用した。
41. 学校の寄宿舎→入院後は長期なる事から、母が父の付き添いもできる日が作れるよう、週一で利用していた舎を一時増泊して本人を受け止めてくれた。家族→急きょ数日間、祖母(父の母親)が父の入院に対して付き添いをしてくれた。
42. 居宅事業所に相談し、術前の診察は通院介助を利用し、手術・入院時では、病院付添いは居宅事業の制度サービスが使えない為、事業所のパーソナルサービス（私的契約）を利用し、一泊の付き添いをお願いした。
43. 結局どこにも相談できず、親子ともども孤立無縁になり助けてほしいが手立てを知らなかった。
44. 降車を職員が促したが、降りることが出来ず、弟の治療終了まで、そばで見守り。
45. 私的契約 パーソナルサービス
46. 精神科への入院。
47. 短期入所、ナイトケア。
48. 通所先の事業所ではその頃（平成12年）まだ制度にないパーソナルサポートサービスをこの機会に立ち上げていただき私的契約で9日間、本人を宿泊サービスや外出余暇サービスなどで受け入れて支援をしてもらいました。
49. 電話した時に本人が現れましたので大事にはなりませんでした。お父さんが向かいに行くまで預かってもらいました。
50. 当時の職員や親の協力でアパートを借り、職員のボランティアで共同生活により、対応してもらった。1年後にグループができて入居となった。
51. 特に相談員からの対応はなし。「急な場合のサービスはないです」との回答のみ。そのため、当日(祖母が急病時)は結局祖母には自宅で待たせるしかできず、支援は受けることはなかった。(その後祖母は入所したため、現在は不在)
52. 特別支援学校に通い続けることや今後の自立という点で、自宅に本人の性格なども配慮したヘルパーを派遣して、食事作りや翌日の準備などその他、起床のワンコール電話対応など私的のパーソナルサービスなどで支援をしてもらいました。
53. 入院中の付き添い全てを、ご家族にお任せすることは実質的に不可能であり、また入院中の付き添いに適用可能な公的サービスも無かったことから、ご家族のほか、日中利用の生活介護事業所職員による勤務外対応と、居宅支援事業所のパーソナルサービスを利用し、入院中の付き添いを行った。また、法人家族会の入院互助会制度について説明を行い、付き添い費補助に役立てることが出来た。
54. 福祉サービスでは、緊急対応できなかった。日頃利用していた居宅事業所もスタッフが派遣できない状況だったため、母親が一人に対応。本人の支援が終わるまで、医療機関スタッフに待機してもらい、対応。当時は祖母も隣で生活していたため、本人を自宅へ送迎した後、一緒に自宅で待機してもらった。見守り程度を

- 担ってもらったが、母も介護が必要な状況だった。
55. 母からの連絡を受けてすぐに自宅に向い、ご本人と話して法人で行っている学独型ショート宿泊で急きょ対応してご家族と一定の距離を図った。日中は普段通り生活介護事業所に通えるようにしてもらえた。
 56. 母親が近所の知人へ連絡を取り、本人(弟含む)の面倒をみてもらった。入浴や夕食までお世話になった。地域の民生委員へ相談したら「(当時)B2で障害も軽いのに、なぜ連絡してくるの。」と言われた。
 57. 本人が夜中に自宅でパニックとなり、母一人では対応困難で通所施設職員に電話をして助けを求めた。すぐに自宅訪問をしてくれて、本人の対応をしてくれた。
 58. 本人の兄弟にたのみ、留守の間みてもらった。結果としてサービスの利用はしなかった。
 59. 本人の対応中に弟が夜中に耳を怪我してしまい耳鼻科に連れて行かなければいけない時があった。
 60. 娘(車いすにて生活している)が帰ってきてから娘に預けて病院に行く。
 61. 娘に相談した。

c) サービスメニューの複数選択 (2つ以上)

ア) 短期入所&居宅介護 (1件)

62. まず、相談した施設職員が自宅へ来てTEACHによる構造化支援を受けた。ヘルパーの派遣を受け、家に来て見守りから始め、外出できるようになった。S、Hでショートステイを利用。ヘルパーによる送迎で学校へ行くことも提案してもらったが、金銭的に難しかった。引きこもり状態で通学ができないことにより、訪問教育に切り替えることになった。養護学校卒業と同時にゆいへの短期入所をした。

イ) 短期入所&行動援護 (3件)

63. 家族のこと：短期入所施設の利用。また外食など日中の活動の対応○本人のこと・飲水量を減らす為自宅への帰省回数を減らしたり日帰りでの帰省の日を設定し、通所施設やグループホームを利用する時間を増やすことで、自宅での飲水量を抑え発作を減らした。・友人に居宅サービス事業所を紹介してもらい外出サービスなどを活用した
64. ①学童があった場合、学童終了期間～勤務または研修等の終了時間～帰宅時間までの依頼をお願いした。(学童への迎え～自宅まで送り届けてもらった)②学童がなかった場合、学校の下校時間～帰宅時間までの依頼をした(学童への迎え～自宅まで送り届けてもらった)③泊りがけの研修、短期入所
65. 行動援護事業所に夕食まで食べさせてもらい、短期入所施設まで送迎してもらい、数日短期入所施設を利用した。

ウ) 短期入所&生活介護 (1件)

66. 運よく短期入所が使えたこともあった。1～2 時間程度の用事であれば移動支援や日中一時にお願いできた。生活介護事業所で土日に日中一時でみてくれる事業所があるのでそれが利用できた場合は助かった。

エ) グループホーム&重度訪問 (1 件)

67. 母親が祖母の入院準備付き添いを行っている間、居宅介護事業所を利用して本人の支援を受けることができた。普段の利用時間はAM 2 時間程だが、3 時間以上の対応にしてもらえるようになった。

オ) 生活介護&居宅介護 (1 件)

68. 日中は生活介護、夜はケアホーム又は居宅介護で施設職員さんに相談していただいております。その時は本当に安心して預けることが出来たので助かりました。同じ法人だったので良かったです。居宅介護で少し遅い時間まで見ていただいております。家まで送ってもらう支援。

69. 福祉有償運送による送迎サービス・移動支援による余暇外出

カ) 居宅介護&行動援護 (1 件)

70. ご家庭にて救急車を呼び、救急救命センターにて入院することとなった。母親仕事、父親夜勤明けのため、翌朝居宅介護事業所に入院付き添いの依頼をするも、すぐには職員態勢が組めず、午後からの事業所のパーソナルサービスの付き添い対応になり、AMは夜勤明けの父親が対応することとなった。午後から対応した事業所職員が退院準備と退院の送迎を行った。入院先では胃洗浄と活性炭の投与処置を受けた。

キ) 短期入所&グループホーム&生活介護 (2 件)

71. <自宅生活からグループホーム生活へ>自宅生活が困難な状況となったため、法人職員に相談したところ、グループホームへの移行を視野に、短期入所を利用しながら両親のレスパイト及び本人の生活リセットを図ることになる。その後、施設入所期間を経てグループホーム物件の確保および支援環境の準備を行い、グループホーム生活を開始する。自閉症特性に配慮した環境下においては、現在まで安定的に生活を送っている状況にある。

72. 月～金の日中は、生活介護で過ごし、夜はグループホームで過ごす。土日は短期入所または、グループホームで過ごす。短期入所は受け入れてもらえないことが多かった。

ク) 短期入所&生活介護&行動援護 (5 件)

73. 生活介護事業所に対応してもらったり、行動援護などヘルパーを利用した。又短期入所の利用。

74. 相談支援事業所に相談。相談支援専門員がサービス等の調整を行う。ショートス

- テイの利用(2泊)。葬儀に行動援護を利用してヘルパーとともに参列(葬儀場とショートステイ事業所への送迎は福祉有償運送を利用してヘルパーが行う)。家族の迎えが生活介護事業所の閉所時間に間に合わないため、延長対応。
75. 葬儀に行動援護を利用してヘルパーとともに参列(葬儀場とショートステイ事業所への送迎は福祉有償運送を利用してヘルパーが行う)。私的サービスで1泊宿泊(当時、定期的に利用し本人が慣れた事業所にて対応。寄宿舍やショートステイ事業所は当時利用がなく、本人の慣れた事業所での対応となった。)
76. 不幸があった場合は急遽短期入所をお願いした。休校の時は、前日に連絡して行動援護のサービスを急遽依頼し対応してもらった。生活介護では、急用の際は時間を延長してもらい、本人が急病になったときは通院もお願いした。どこの事業所も送迎も含んで対応してくれたので大変助かった。
77. 本人骨折時、グループホーム・生活介護事業所と相談し、連絡を密にとり、迅速に通院対応を行ってくれた。今までの通院対応は、概ね保護者で行っていたので非常に助かった。父の体調が思わしくない時や他界した際にも急遽の依頼だが短期入所や行動援護のサービスを快く受け取ってもらうことができた。

ケ) 行動援護&生活介護&居宅介護 (1件)

78. 居宅介護支援事業所Rによる支援。ナイトケア及び医療支援を要するため、訪問介護ステーションのサービスを利用する。宿泊体制については、ナイトケア及び落穂地域支援室のヘルパーさんに自宅に宿泊して頂き、対応して頂いた。

コ) 短期入所&生活介護&行動援護 (1件)

79. 本人骨折時、グループホーム・生活介護事業所と相談し、連絡を密にとり、迅速に通院対応を行ってくれた。今までの通院対応は、概ね保護者で行っていたので非常に助かった。父の体調が思わしくない時や他界した際にも急遽の依頼だが短期入所や行動援護のサービスを快く受け取ってもらうことができた。

サ) 短期入所&生活介護&行動援護&居宅介護&重度訪問 (1件)

80. 相談支援事業所が中心となり、本人が安心してショートステイを利用できるよう調整をおこなった。本人が安心して過ごせることを第1の目的として、事前見学や体験利用等実施した。ショートステイ中も通常通りに通所し、G事業所を組み合わせながら、本人が不安を持たないよう支援をおこなった。

(4) 対応に対する評価

1) 急を要する支援を必要とした際の対応・支援への評価（複数回答）

急を要する支援を必要とした際の対応・支援への評価は、「満足」68件（72.3%）が最も多かった（表 13,図 20）。

表 13 対応に対する評価

項目	介護者自身		家族		本人		合計	
	名	%	名	%	名	%	名	%
満足	16	17.0%	24	25.5%	28	29.8%	68	72.3%
やや満足	1	1.1%	4	4.3%	8	8.5%	13	13.8%
やや不満	2	2.1%	3	3.2%	2	2.1%	7	7.4%
不満	1	1.1%	4	4.3%	1	1.1%	6	6.4%
不明	1	1.1%	4	4.3%	5	5.3%	10	10.6%
合計	20	21.3%	35	37.2%	39	41.5%	94	100.0%

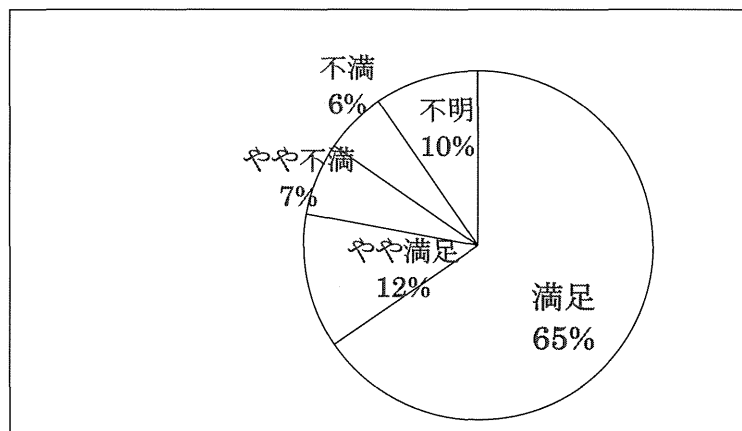


図 20 対応に対する評価の構成比

2) 対応・支援に対する評価内容

対応・支援に対する評価内容の報告は、75件であった。不満の理由の具体的記載の整理は、回答者の選択（家族のこと、本人のこと）に基づいて整理を行った。

a) 不満の理由（4件）

(ア) 家族のこと（内訳：3件）

01. 相談した結果「サービスはない」と言われたただけだったため。
02. 家族構成や連絡先をおさえて緊急時の対応を考えてほしい。緊急時専門のスタッフを配置した方がタイムロスなく動けるので、事業所やスタッフ配置の問題もあるが本当に緊急を要する時にすぐに対応できるような体制にしてほしい。
03. ショートステイの利用はできたが、姉妹別々な施設の利用となってしまった。1人は利用できるが、もう1人は利用できないといった対応があった。

(イ) 本人のこと (内訳 : 1 件)

04. 短期入所は、土日は利用できない。短期入所に長期で入っているの(入所待機)平日も非常に使いにくい。「月日数-8 日ルール」があるので土曜日の日中活動がなく困っている。日中だけであれば移動支援や日中一時支援などでしのげるが、宿泊が伴うと短期入所しか手がなく非常に困る。短期入所は申し込んでも使えるかどうかわからない状況。緊急時に使えない。

b) やや不満の理由 (5 件)

(ア) 家族のこと (内訳 : 3 件)

05. 助かっている。自分で対応できる範囲は何とかなしようと思う。遠慮もあるし、緊急度によって依頼するのがためられることが多い。本人がある程度自宅で過ごすことが出来るので、ほとんどはそうしている。しかし、てんかん発作を持っているのでその点は心配である。
06. 通所先やショートステイ先は、理由を説明して頼めば対応してくれた可能性はあったが、迷惑がかかると思い遠慮してしまった。ただし、もっと重大なことが起こった場合のことを考えると、普段から複数のショート先を確保するなどの対策が必要だと感じた。
07. 短期入所の利用は、事前に予約をしていなければ対応が難しい状況であり、急に支援が必要になった場合に、スムーズに対応してもらいたかった。時間を気にせず済むように長い時間支援してもらいたかった。

(イ) 本人のこと (内訳 : 2 件)

08. 緊急時に対応してもらえる事業所があればよかった。活用できるサービスが思い浮かばなかった。つながりを増やしておく必要性を感じた。
09. インフルエンザ等で本人が動けない時など緊急時に対応してほしい緊急時に対応してもらえれば、と思いつつも無理だと思っている柔軟な対応をしていただければ(ショートステイや送迎など)

c) やや満足の理由 (9 件)

(ア) 家族のこと (内訳 : 3 件)

10. 主治医の判断は納得できた。本人は入院について承諾しなかったため、医療保険入院となった。
11. 寄宿舍に入れたことはよかったが、急な生活変化の中で本人が入浴拒否となり、その後しばらく自宅でも入浴拒否が続くようになってしまったため。
12. その都度対応してもらえてよかった。事業所(福祉有償運送)の送迎は、年末年始も受けてほしい。365 日稼働してほしい本人だけではなく、家族全体も支えてほしい。

(イ) 本人のこと (内訳 : 6 件)

13. 速やかに対応してもらったことには満足している。しかし今回のケースは運が良かったと思っており、毎回は厳しいだろうと考える。前提として日常的に信頼できる法人関係者がいる必要があった。気軽に助けがもらえる電話相談の場などがあって欲しい。
14. 人員不足等もあったが、出来る範囲で助けてくれることはありがたかった。しかし、本当の緊急時にはすぐに来てくれると安心。
15. 宿泊場所の環境(寒さなど)。支援の方法が不明～しっかりとみてもらっているか分からないから。
16. 救急救命センターでは、夜間本人のみの入院で良いと言われ、両親は帰宅しているが、本人火災報知機に強いこだわりがあり、動ける状態になると押してしまうのが心配になった(病院には説明した集中治療室で病院職員が居る状況なので大丈夫と言われた)。病院の規則で帰宅することとなったが、実際に押してしまう可能性が高いので、その辺の事情も考慮して対応して欲しいと感じた。退院当日、急な依頼に居宅介護事業所が対応してくれて負担は軽減された。
17. いつも短期入所で利用させていただいている所ですので安心感は私達親も本人もありました。ただ 1 つ、スタッフの方が相談員さんに連絡を入れると同時に私達の方にもすぐに連絡が欲しかったと思いました。次回は戻ってこなかったらすぐに相談をさせてもらおうと思います。
18. 葬儀後の対応などを行うため、出来れば母がもう一日程度実家に泊まって行いたかったが、ショートステイが取れずに対応できなかったため。

d) 満足の理由 (49 件)

(ア) 家族 (内訳 : 14 件)

19. 無理してショートステイを入れてもらったので、大変助かった。一つ問題が起きると(本人の問題だけではなく)、家族全体が崩れてしまうので、落ち着くまで話を聞いて貰って良かった。本人のことではなく、妹の不登校の問題だったので気が引けたが話を聞いてもらっただけでスッキリできた。
20. 日頃からお世話になっている方に見ていただけたので本当に良かったです。
21. 大変助かりました。とても感謝しています。
22. 迅速に対応して下さり感謝の気持ちでいっぱいだった。本人もいつも通っている事業所なので変わりなく落ち着いて過ごせた。
23. 自分が困った際、すぐに市へ情報を入れてくれ、話が通っていたのでとてもスムーズに動けたから。また、慣れた場所だったので本人もショートで急な受け入れにも関わらず、安定して過ごせたから。
24. 緊急時に迅速に対応して下さり助かった。
25. 緊急な状況でとても困っていたが、すぐに対応してもらってとても助かった。重度障害の児を持つ親として、本当にありがたく感謝している。
26. 緊急で困っていたため、預かってもらえて助かった。

27. 急でも見てもらえたから。
28. 家で留守番をすることはできないため、時間を早めてあずかってもらえたことが本当にありがたかった。本にも喜んで行ってくれる事業所なので安心してあずけられた。
29. すぐに対応して下さり助かった。雰囲気も良く安心感があった。本人も楽しく利用していた。少し立地の不便さがあった。山間に入ったところであり、送迎が大変だった。
30. すぐに対応して下さり助かった。
31. おおむね満足である。急な不幸があった時は大変助かった。希望を言えばきりがないが、本当は他にもお願いしたいときもあったが、緊急でない場合は遠慮して頼めないこともあった。
32. インフルエンザ流行ということで、配慮して頂きありがたかったです。

(イ) 本人（内訳：24件）

33. 本人の興奮状態に対して手に負えず危険な状態で助けを求めた時に、通所事業所ですぐに対応してもらい、非常に助かった。また日常的につながりのある慣れた職員が対応してくれて安心であった。
34. 本人が安心してサービスを受けることが出来た。
35. 保護者や家族がメンタル的にも詰まった状況であったので、この機会に家族でリフレッシュすることができた。非常に満足している。
36. 大変満足している。頼りにもしている。しかし、行動援護、居宅介護の面で、基本は固定客でシフトが固まっており緊急時の時は、毎回本当に対応して頂けるのかは常に不安に思っている。
37. 手術は全身麻酔であったが、その後、麻酔から覚めた後の病院での見守り・介護が本人が病院での不安感や動き回ったししないかと心配であったが、事業所スタッフの方で対応してもらい助かった。
38. 自分自身(母親)が働いているため、安心して働くことが出来ている。頼っているし対応にも満足している。本人が楽しんで通うことができていたので特に要望などはない。
39. 支援がなかったら解決までに大変であったと思う。時間も労力においても。
40. 仕事で出張中も安心していられ、不安なく支援をしてもらい満足している。
41. 肩の力が抜け、とても力強く安心感を持つことができるようになりました。
42. 緊急時でも速やかに対応してもらうことが出来たため。
43. 緊急だったが、食事を食べさせてくれて、送迎をしてくれて助かった。短期入所も受け入れてもらえて感謝している。
44. 関係者がみなさんで本人が落ち着いて生活できるために相談してくれて、その結果現在落ち着いた生活が送れている。
45. その当時は、家庭内では限界であったので、職員のボランティアがとても助かった。また、現在、グループホームで365日対応してくれることになって、家庭

としてはとても助かった。

46. すぐに対応して頂けたので満足。
47. ご家族には仕事上の都合があったため、付き添いのほか、病院 Dr.からの説明や検査対応、病院側とのやり取り全般で、法人職員が中心的役割を果たし、ご家族と情報共有を図っていたことに満足いただいている。
48. ○○施設ですが急なことでも予約が入りましたが、もしダメなら本当に困りました。
49. PTSDの症状があり、難しい状態の中、受け入れて下さり少しずつ気分も快方に向かうことができました。とても助かりました。
50. 23時、24時に電話をしてもすぐに駆けつけてくれた。当時のことは今でも感謝している。
51. 自宅から独立し、グループホームにて安定的に暮らしている姿を見て安心している。本人は気持ちや思いを伝えることが苦手であり、また父親も本人との接し方について柔軟に態度を変えることができずに、自宅では難しい生活状況であったが、今は本人の気持ちに配慮した支援によって穏やかさを取り戻し満足である。
52. 緊急時に対応してもらえる事業所があつてよかった。急なサービス利用だったがスタッフ本人がかわいがってくれた。二度と出産の内、初回の短期入所利用後は、まだ幼かったこと、さすがになれない環境下に1週間近くおかれたため、言葉がしばらく出ない症状がみられた。二度目は慣れており、利用後も様子は変わりなかった。一度目の経験が生かされた。
53. 急遽対応してもらい助かった。急な対応への柔軟さや緊急時でも本人を理解知っている人に対応してほしい。その為、本人に急な医療処置が必要で母で対応できない時に、事業所職員で対応できた事が非常に助かった。又、緊急とは本人や家族にとってのものでなければならない。緊急時ではないと判断された場合でも、保護者などへのその後のケアをしっかりするべきである。保護者、家族にとっては緊急時でサービスを使えなかった際にがっかりする。もし緊急ではないと判断した場合でも保護者、家族の大変な想いをしっかり受け止めてあげて欲しい。
54. 急なオーダーにも、隙間なくスムーズに対応してもらえたため。慣れた事業所に対応してもらい、本人が不安定になることなく過ごせたため。遠距離にも関わらず、祖父の葬儀に本人が参列できたため。
55. すぐに対応してもらえたため。また、二泊三日の受け入れにより、母が実家(不幸のあった家)に泊まってゆつくりとする時間を持つことができた。
56. ありがたかった。相談する人やサービスを利用することがなかったら、心中をしていたと思う。それまでの支援の中で利用者が複数で対応されていたところを、特性に合わせてショートステイで個室が保障される、個別対応をされることで本人が落ち着いたのではないかと思っている。支援費制度が始まるなど、サービスの幅が広がる過渡期にあつて使えるサービスが出来たのも今考えると良かったと思う。

(ウ) 介護者自身のこと（内訳：11件）

57. 満足している。急な時に対応してくれるのは助かります。
58. 本人の普段の生活をほとんどそのまま維持できたため、本人も大きな混乱なく安心して過ごせたようであった。もし、入所施設でのショートステイであったなら、本人の状態がどうなっていたか分からなかった。
59. 日頃からよく知っている事業所や相談、学校が連携を取り、出来るだけ穴を開けずに体制を整えてくれたため。以前より定期的にサービスを利用していたので本人、家族ともに安心して利用することが出来たため。
60. 突然動けなくなって、どうにもままならない状態で、すぐに対応していただきとても助かりました。
61. 治療に専念できたので満足（感謝）しています。
62. 拘りが強く変更が聞かない子どもの特性を普段のサービスから理解して頂いていたので、対応してくれた事の喜びやいつもと同じ事業所の対応だった為安心してお願いする事が出来た。
63. 以前から利用していた事業所で普段から本人に関わっているスタッフを中心に、サービスを組み立ててくれたため、本人は安心して過ごすことができたようである。異なる法人同士の複数事業所による連携もうまく機能し、本人や家族のニーズに沿ったサービスを提供してもらえた。
64. 安心して預けられた。
65. いつも通っている施設なので日中の行動も変わりなく過ごせたようで、帰って来てからの様子もなく安心しました。
66. 知人は年配の方だったが快諾して対応して下さった。地域の方がよく理解して下さった。
67. ①②に関しては満足。急な依頼でもできる限り対応して頂いている。勤務だと超過し、約束の時間に遅れることもあり、迷惑をおかけしているが、気持ちよく待っていて下さっている

e) 不明（8件）

(ア) 本人のこと（内訳：3件）

68. 二度の急な支援が必要であったが、事前に分かっていたこともあり、大きな混乱もなく、しのぐことができました。相談サポートセンターの担当者が中心となり、定例の会議を実施し、関係する各支援機関がそれぞれの立場から本人の状況や今後に向けての方向性など話し合う機会が設けられていることが何か事が起こった場合でも大きな混乱をまねくことなく、対応して頂くことにつながったと思います。他者からの大なり小なりの支援が必要で、それがないと生活することが不可能なため今後も手厚い支援をお願いしたい。
69. 対応なしのため、なし。
70. ○○本人のこと・帰省の回数は減ったが、本人は特に気にしていない様子なのでよかった。母親としては今後家での飲水量が増えたら一緒にいる時間がなくなっ

てしまうのではないかと思うと少し寂しい。

(イ) 介護者自身のこと (内訳：3件)

71. 短期入所では、食事を摂らなかつたりすることがあり、少しでも食べるようにも少し工夫してもらいたかった。
72. ①相談窓口が明確ではなかった為に介護者の負担が増えたと思われる。療育手帳を持っている方と介護者の定期的な訪問で相談して頂けると良かった。
73. ②危険な状態な場面では、病院や保健所など、連絡先が分かり、2人以上の体制で関われば良かった。

(ウ) 家族のこと (内訳：1件)

74. 対応してもらったことで家族の用事も済ませられたし、本人も外食など楽しめた様子だったので良かった。

(エ) 不明 (内訳：1件)

75. ささいなことと呼び立てて申し訳なかったが安心感をもつことができた。

3. 地域での生活に抱く不安

(1) 地域生活への不安の有無(複数ケース回答)

地域で生活することに対して不安に思っていることの有無は、「有り」144 件 (98.6%) であった(図 21)。その不安の対象は、「本人」83 件 (56.8%) が最も多かった(図 22,

表 14)。

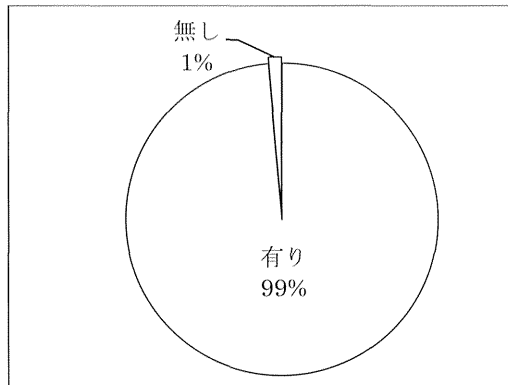


図 21 地域生活への不安有無の構成比

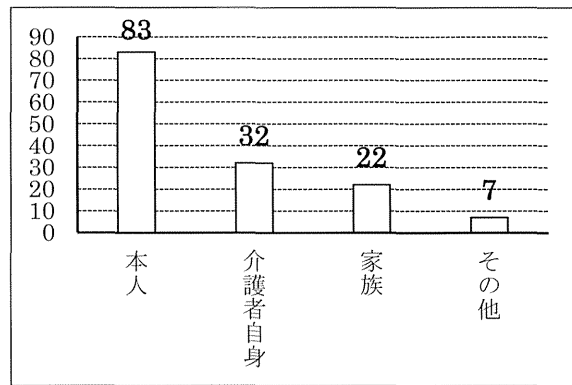


図 22 地域生活の不安の対象

表 14 地域生活への不安の有無(複数ケース回答)

不安の対象者	有り		無し		不明		合計		
	件	%	件	%	件	%	件	%	
本人	83	56.8%					83	56.8%	
介護者自身	32	21.9%	1	0.7%			33	22.6%	
家族	22	15.1%	1				23	15.8%	
その他	7	4.8%					7	4.8%	
内容	支援員・者	(3)	(2.1%)					(3)	(2.1%)
	災害時のこと	(1)	(0.7%)					(1)	(0.7%)
	地域の生活環境整備	(3)	(2.1%)					(3)	(2.1%)
合計	144	98.6%	2	1.4%			146	100.0%	

(2) 地域で生活することの不安を相談したい機関・人(複数回答)

地域で生活することの不安を相談したい機関・人は、「相談支援事業」91 件 (36.5%) が最も多かった(図 23)。また、地域で生活することの不安の対象は、「本人のこと」91 件 (36.5%) が最も多かった(図 24, 表 15)。

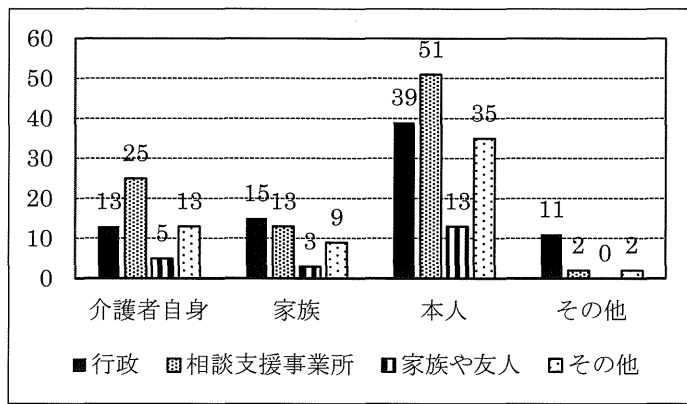
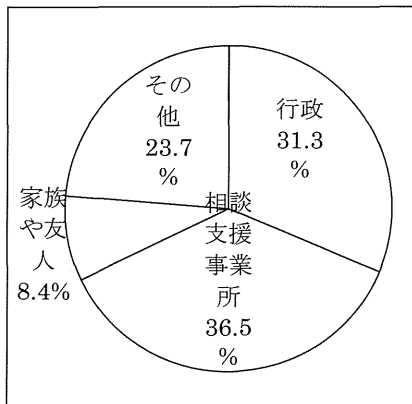


図 23 相談したい機関・人の構成比

図 24 不安の対象と相談をしたい機関・人の内容

表 15 地域で生活することの不安を相談したい機関・人

相談したい人・機関	介護者自身のこと		家族のこと		本人のこと		その他		合計	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
行政	13	5.2%	15	6.0%	39	15.7%	11	4.4%	78	31.3%
相談支援事業所	25	10.0%	13	5.2%	51	20.5%	2	0.8%	91	36.5%
家族や友人	5	2.0%	3	1.2%	13	5.2%	0	0.0%	21	8.4%
その他	13	5.2%	9	3.6%	35	14.1%	2	0.8%	59	23.7%
合計	56	22.5%	40	16.1%	138	55.4%	15	6.0%	249	100.0%

相談したい人・機関のその他の項目は、「利用または関係している法人・事業所」25件 (32.5%) が、最も多かった (図 25, 表 16)。

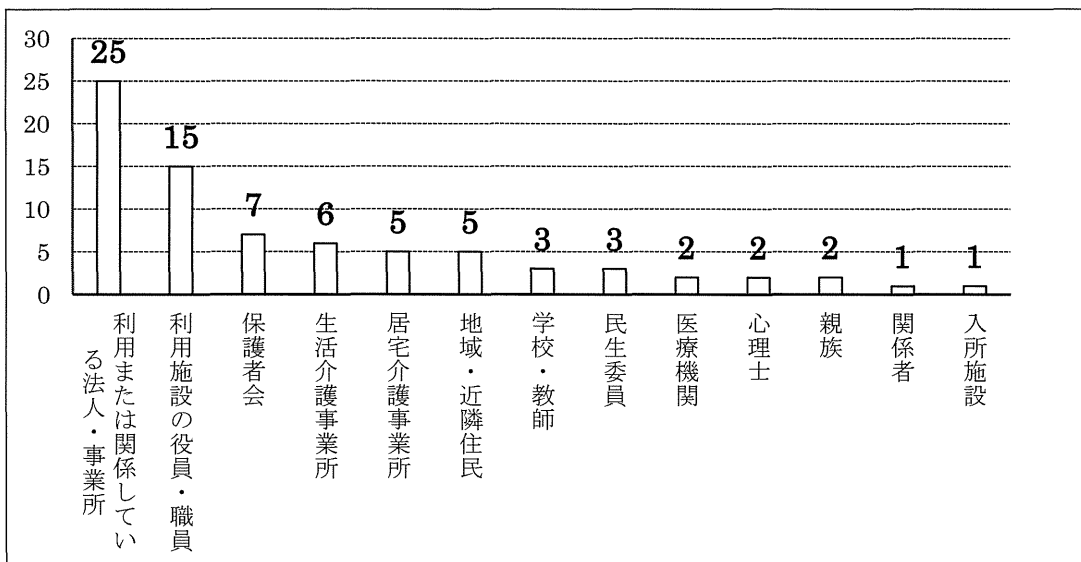


図 25 その他の相談したい人・機関

表 16 相談したい人・機関のその他の項目

相談したい人・機関	介護者自身		家族		本人		その他		合計	
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
利用または関係している法人・事業所	4	5.2%	16	20.8%	3	3.9%	2	2.6%	25	32.5%
利用施設の役員・職員	4	5.2%	8	10.4%	3	3.9%			15	19.5%
保護者会	2	2.6%	4	5.2%	1	1.3%			7	9.1%
生活介護事業所	3	3.9%	3	3.9%					6	7.8%
居宅介護事業所			3	3.9%	2	2.6%			5	6.5%
地域・近隣住民			3	3.9%	2	2.6%			5	6.5%
学校・教師			2	2.6%	1	1.3%			3	3.9%
民生委員	1	1.3%	1	1.3%	1	1.3%			3	3.9%
医療機関			2	2.6%					2	2.6%
心理士			1	1.3%	1	1.3%			2	2.6%
親族	1	1.3%	1	1.3%					2	2.6%
関係者			1	1.3%					1	1.3%
入所施設	1	1.3%							1	1.3%
合計	16	20.8%	45	58.4%	14	18.2%	2	2.6%	77	100.0%

(3) 不安に思っていることの具体的内容

地域生活をすることに對して、不安に思っていることの具体的内容として、79 (77) 件が報告された。うち、2件は2つの異なる内容であったため、分けて処理を行った。また記載内容の整理は、回答者の回答した選択に基づいておこなった。

1) 緊急時の相談 (合計：23 件)

a) 介助者自身のこと (内訳：5 件)

01. 病気の再発 老化による体力の衰え
02. 親が(支援者)倒れたときにどうするか。
03. 緊急時や災害時のこと。例えば介護者(私)が急に倒れたときに本人が何ができるのか…。地域の民生委員が訪問され、災害時に必要なリスト登録をすすめられた。
04. 介護者が体調不良の時(入院なども)。

(ア) 本人の将来

05. 二人暮らし(ご本人と情報提供者である母親)のため、もし母が入院になるなど急な不在時の場合、夜間の本人の過ごしはどうなるのか。

b) 家族のこと (内訳：2 件)

06. 祖父母の急変時
07. 会う頻度の少ない親族に本人の介助をさせるのが不安。祖母が認知症の症状があり今後、本人と一緒に生活することになると思うと考えさせられることがある。

c) 本人のこと（内訳：11件）

08. 本人が自宅一人でいる時に災害などがあつたら心配である。地域の人や職員に助けを求められたら良いが、なかなか難しいだろう。本人が入院した時に付き添いをお願いしたい。
09. 二人きりの生活なので緊急支援であっても間に合う者なのか。
10. 痛い等の主張が誰にも出来ずイライラがつのりパニックを起こす事が多い為、自閉症を理解したヘルパーさんに対応をお願いしたい
11. 人との関わりが苦手で、これまでに福祉サービスを利用した経験がない。
12. 身近な地域に、緊急時のサービスをお願いできる場がない。
13. 自宅で災害等にあつた場合、近所の方達が子どもに接したことが無く、自閉症の理解など近所の方は知らない。
14. 今後、本人、母、父の三人暮らしの中、母に何か病気等急な状況が発生した際に、対応してもらえるところがあるか。
15. 現在、アパートで独り暮らしをしている。朝・夕はヘルパーのサービスを受けているが、夜間は一人であり、災害等などの緊急時対応で今、生活介護の職員が24時間体制で何かあると駆け付けてくれるが、いつまでも今の様な対応をして入れるかどうか不安。
16. 緊急時に、本人が安心して日常生活を送れるような支援を受けられるように今後も取り組んでいただきたい。
17. 居宅介護サービスの延長(本人が1人で過ごすことが困難なため、長時間在宅することへの不安)。家族の通院時や体調不良の時の見守り。
18. これまでの経験として、私の場合は通所先の事業所が相談にのってもらい、具体的に支援をしてもらえることができたが、まだまだ緊急時に相談し対応してもらえるところ少なく、そうした情報すら分からない家族もいるのでは。

d) 介助者・本人のこと（内訳：1件）

19. 緊急時の受け入れ。

e) 介助者・家族・本人のこと（内訳：1件）

20. 保護者が病気や冠婚葬祭等で介護できない時の支援について→緊急時に確実に利用できるショートステイ、親亡き後のサポート体制(本人に必要な支援はしっかりと届くのか。)

f) 家族・本人のこと（内訳：3件）

21. 長期の入院が必要になった場合などを考えると、非常ベルを押してしまうことや、物を投げるなど、四六時中何があるかわからないことによる不安が強い。
22. 祖母（母方）が80歳で認知症になってきている。今後進行した場合に、家族の意識が祖母に向かうことで、本人が精神的に不安定になることが考えられる。
23. 緊急時の対応。通所利用事業所だと言にくいこともある。

2) 緊急時とその他（合計：11件）

a) 介助者自身のこと（内訳：8件）

24. 病気や緊急時で介護ができなかった時。

25. 介護者（母）自身が万が一事故や入院があった時に父や祖母が現状ではどこに連絡すればいいかわからない。

(ア) 地域生活でのトラブル

26. 急病の時の本人の施設の受け入れと送り迎え。介護者の老いで本人を施設にいつから預けるかということ。とことん一緒まで暮らしたいのですが。

(イ) 介助者の高齢化

27. 介護者の老い。

(ウ) 項目無し

28. 母と二人暮らしの為、母が入院や死亡した場合や急遽家を空けなければならなくなった場合に本人はどうすれば良いか。

29. 大声を出す、激しい行動等があるので、周りに迷惑をかけたか、痛い視線で見られたりすることがつらい。小さいころ、警察を呼ばれることがあった。

30. 気もちが高揚すると大きな声を上げてしまうため、近所に迷惑をかけてしまうことがあること。過去に近隣住民から騒音のクレームがあり謝罪したこともある。丁度、変声期の時期で、朝の時間に近所を散歩しながら車を眺める際に大声が出ていた。当時は学校の先生へ相談したが本人をなるべく外に出さないようにすることぐらいしか具体的な解決策はなく、家族もかなり落ち込んだ。現在は近所の方にも注意しているのが分かるように、大きな声で本人への注意を行っている。周囲との良い関係を保ちながら地域生活を継続するため。

(エ) 卒業後の生活

31. 緊急時に安心して対応してくれるところがあればよい。親戚、知人であっても実際には頼みづらい。卒業後の本人の進路について～日中活動や生活の場も含めて不安はある。

b) 介助者自身・本人のこと（内訳：1件）

(ア) 親亡き後の生活

32. 不安が無いわけではない、介護者が急病などで緊急で対応してほしい時が不安である。また、本人の将来の自立について不安があるとのこと。

c) 介助者・家族・本人のこと（内訳：2件）

(ア) 親亡き後の生活

33. 保護者(特に主介護者)が病気や冠婚葬祭等で介護できない時の支援について。家族の高齢化(同居の祖父母は元気であり、一部の支援をお願いできることもあるが、祖父母が要介護者になった時には本人以外に支援を要する者が出た場合の家族全

体の生活。) 親亡き後の支援体制。

34. 家族や親戚の葬祭時→本人をみれる人がいないためショートステイ等のサービスを利用することが考えられるがスムーズな利用が出来るかどうか。主介護者自身が病気等で本人をみれなくなった時の対応。→本人が小さい時には祖父母の協力が得られたが、祖父母自身の高齢化や本人の力が上回り突発的な行動で祖父母が回避できない場合の不安等があり母不在の状況で本人を任せることは難しい。父も本人の支援について日常的には協力的であるが、仕事もあり長期スパンで本人を見ることは難しい。※父も休日の対応や母のサポート役等、協力的な家庭であり祖父母との同居であるため日常的なリスクは低い、主介護者である母が不在になった途端にリスクが高まり、家庭のみでのサポートは難しいと予見される。→現在、家族が行っている部分の支援をどう埋めるか？地域のショートステイは使えるのか？

3) 緊急時の相談とひとり暮らし (合計：5件)

a) 介助者・本人のこと (内訳：1件)

35. 7年程前より母親が夕方から自宅にいたので大きな不調感は見られていない。破衣行為が続くと衣類を購入する手間や金銭的な負担も大きくなるので大変。母親に何かあっていなくなった時が不安。

b) 本人のこと (内訳：3件)

36. 母が体調不良、家族に何かあった時にどうしたらよいか。母子ともに具合が悪くなった時どうしたらよいか(母子家庭のため)。
37. 災害時の不安。民生委員が巡回等してくれており、行政と連動して母と本人の情報を登録してあるが、自宅の裏が急傾斜地域で崖になっており、地震等の自然災害が起きたときの不安がある。
38. 家に母親や家族が居る・居ないに関わらず、家から一人で外に出て近くの公園に行くことがあり、知らないうちに事故に巻き込まれたりする可能性があることが不安である。

c) 家族・本人のこと (内訳：1件)

39. 母と二人暮らしの為、母が入院や死亡した場合や急遽家を空けなければならなくなった場合に本人はどうすれば良いか。

4) ひとり暮らしへの移行に向けた相談 (合計：11件)

a) 介助者自身のこと (内訳：2件)

40. 親が亡くなってしまった際の対応。そうした状況になっても、入所施設は利用できるか。
41. 小さい時には親の力で何とかこなしていたが、力が大きくなると、パニック時に対応が出来なくなっている。家族だけでパニックを抑制することが難しくなってきた

たときに、これから先、どうなるのだろうと不安に思うことがある。成人になって、この不安を事業所に伝えていいのかどうか悩んでしまい、本人が落ち着いて行かないと先に進めないような気がする。家の外でいい顔をして、外でのストレスを発散できないと、グループホームなどにも以降できないのではないかと思う(精神的なことが体調不良を招いてしまう)。

b) 本人のこと (内訳 : 8 件)

42. 母親が病気したとき。
43. 他者との共同の生活が難しい為、一人で暮らす事が出来たらよいと考えているが、自閉症に特化した考えを持つ現在少ないと思う。短期入所等イメージをもって一人暮らし不安なく繋がり 又、充実した生活が送れるのと思うが実施できる事業所がすくない。
44. 将来、グループホームへの移行などを考えた場合、本人の支援度が高いことで、職員がしっかり対応できるか、本人が環境に慣れることができるか、他の入居者に迷惑をかけないかなどの不安が大きい。
45. 自分(母)も高齢となり、いつまで一緒に暮らせるかわからない。兄弟はいるが今は離れて暮らしている。自分に何かあった時のことを考えると心配。
46. 学齢期も終わりに近づき、あと数年で就労をむかえるが、生活介護の事業所が少ない上に定員で働ける場があるのかが不安。また、現在利用している居宅や行動援護などのサービスも成人になると時間数が減り、家庭での負担が増える事が心配。重度の人でも入れる介護付グループホームがほしい。
47. 一人きりで長時間家にいられない(不安だから)。訪問者があっても対応できない(内容を理解できないし、知らない人は怖い)。電話に出ることが出来ない(メールも自分では開けない)。→トラブルがあるといけないので。
48. ショートの場合が少ない。重度知的で身体的にも障害がある介護のサービスが不足している。
49. グループホームへの入居準備について、本人のペースに合わせて準備できるかどうか不安。

c) 介助者・本人のこと (内訳 : 1 件)

50. 介護者がケガや病気になった時、入院等で長期に介護できなくなった場合の対応。本人、介護者両方が病気になった場合の対応→受診することが困難。 本人が病気の時、介護者が対応できない場合(仕事が休めない等)

5) その他 (合計 : 29 件)

a) 介助者のこと (内訳 : 4 件)

(ア) 介助者同士のつながりの必要性

51. 介助者同士の会話の場や憩いの場のような、少し心が休まり愚痴を話せるたまり場か欲しい。